

## CDのモデル作成作業

---

31

- 要求事項に適合した人工物のデザイン(設計)を行う。
- ここでは特に主観的品质特性に関する検討を行う。
  - 当然、意味性と客観的品质特性は入れ込む。
- 具体的な形に可視化したり、プロトタイプ化をすることで「対象化」できるようにする。
  - 具体化することで、評価対象となるようにする。
  - 特にウェブサイトでは、ペーパープロトタイプが良く使われる。

## 3.3 デザインによる解決案の作成

---

32

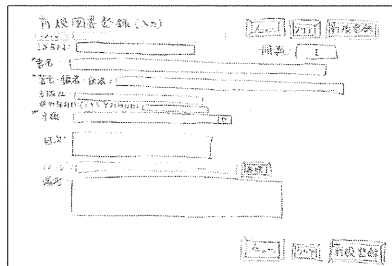


図16 ユーザは最初ペーパープロトタイプも奇妙な体験だと思いかもしれないが、すぐに理解してくれる  
スナイダー、C. "ペーパープロトタイプング" オーム社 2004

## ペーパープロトタイプ例

33

- デザインによる解決策が、要求事項に適合し、意味性、客観的品質特性、主観的品質特性に関して十分なものであるかどうかをチェックする。
- 特に、客観的品質特性については、ユーザビリティ評価が重要である。
  - ユーザビリティテスト
  - インスペクション法、など

## 3.4 評価

34

## ④ 良いWEBサイトの条件

35

- 単純で自然な対話
  - 単純さというのは、不適切だったり稀にしか使われない情報を与えないこと
  - 自然さというのはタスクに適合した秩序のこと
- ユーザの言葉を話す
  - ユーザの世界で使われている概念を使うこと
  - システム固有の技術的用語を使わないこと
- ユーザの記憶の負担を最小化
  - ある行為から次の行為に移るときに、ユーザに何かを記憶させないこと
  - 必要がなくなるまで、画面上に情報を残しておくこと
- 一貫性をもたせる
  - システムのある部分で使った操作系列が他の部分でもつかえること
- フィードバックを提供
  - ユーザに対し、彼らの行動がどのような効果をもたらしたのかを教えること

### 1. ニールセンのガイドラインを参考にすると

36

- 明瞭な出口を提供
  - ユーザが関心のない部分に入った時、何も損ねることなくただちにそこから脱出できること
- ショートカットを提供
  - 熟練したユーザに対し、必要以上に長い対話やメッセージを与えないこと
- 良いエラーメッセージを提供
  - 何が問題で、どのようにしたらちゃんとできるかをユーザに教えること
- エラーを防止する
  - エラーメッセージを与える前に、そのエラーが未然に防止できないかどうかを考えること
- ヘルプとドキュメント
  - 一貫性と標準

37

- 特にウェブサイトの場合には、情報構造(IA: Information Architecture)に関する検討が重要
  - 目的とする情報に有効に効率的に到達できる構造になっているか。
  - 現在、ユーザがいる場所が、サイトの全体構造のなかで、どこになるかが容易に理解できるか。
  - 関連する他の情報に移動したい時、容易に移動できるか。
- さらに他のサイトにリンクする時に特に重要なのは、
  - 一貫性(情報構造が同じであり、操作体系が同じであり、用語の使い方が同じであるか、画面のルック&フィールが同じであるか等)が確保されているか。

## 2. その他の留意事項

38

## ⑤WEBサイトの評価

39

1. ユーザビリティテスト
2. インスペクション法

### 1. 良く使われる評価手法

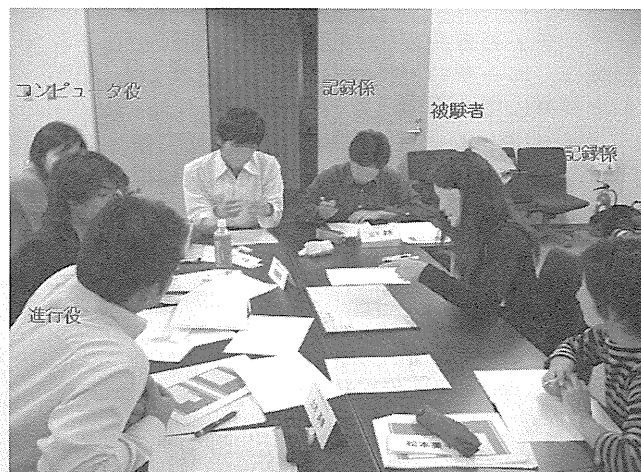
---

40

- ユーザを被験者として参加してもらい、課題(タスク)を設定しておき、被験者に実行させて、問題点を発見する。
  - 特定の情報を見つける(そこに到達する)ことが、間違いなく短時間にできるかどうか。
  - 初心者には分かりやすくなっており、慣れた人には効率的な操作が可能になっているか。
- 見つかった問題点について、すぐに対策を検討し、デザインし直しを行い、改めてテストを行う(反復的設計)。

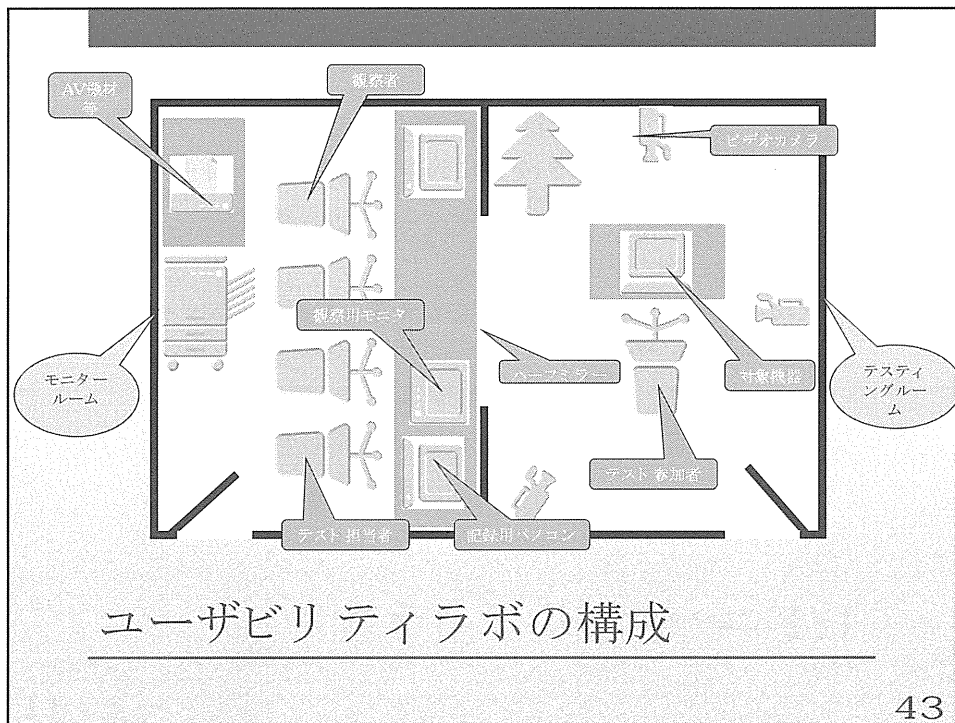
## 1.1 ユーザビリティテスト

41



ペーパープロトタイプを使ったテストの様子

42



- ユーザビリティの専門家(ユーザビリティテストなどを3-4年以上経験し、ユーザの行動特性を把握できている人)が、対象サイトを視察して、問題点を抽出する。
  - ユーザを利用しないために短時間で実施可能だが、複数の視点から評価を行うために何人かの専門家の参加が必要。
- ユーザビリティテスト同様、問題点はすぐに分析して、対応策を検討し、改めて評価を行う。
  - できれば、最終的にはユーザビリティテストでユーザの動作を確認するのが良い。

## 1.2 インспекション法





評価セッションの様子

---

45

おわりに

---

46



- ユーザビリティ、目標達成における有効さと効率
  - 意味性、客観的品質特性、主観的品質特性
  - 満足感
  - 人間中心設計(ユーザ中心設計)と反復設計
- 
- しっかりしたユーザ調査にもとづく意味性の確保
  - 適切な要求事項の設定による客観的利用品質の確保
  - 適切なデザインによる主観的利用品質の確保
- 
- 常にユーザの立場にたって考えること

## 重要なポイント

---

○プロトタイプを紹介○

『I 昨年度調査結果より～ポータルサイト作成にあたっての留意点～』

北里大学薬学部薬学教育研究センター医療心理学部門 准教授

有田悦子

【スライド\_01】

それではお時間になりましたので、後半を始めさせていただきたいと思います。

後半は、私どもがこれまで行ってまいりました研究についてご報告をさせていただきまして、それに基づいて作成いたしました、プロトタイプをご紹介させていただきたいと思います。

【スライド\_02】

初めに私の方から昨年度の調査結果ということで、先ほどの黒須先生のお話でもございましたけれども、一般の方たちの、といった場合に、どのようなニーズがあったのかという調査をさせていただきまして、まあ、時間を一番かけるべきところだということで、そちらの方をベースにして今回のプロトタイプを構築したということで、ご報告をさせていただきたいと思います。

平成 24 年度の私どもの活動ですけれども、まず、国内外の既存の臨床試験ポータルサイトをいくつか代表的なものをピックアップいたしまして、こちらは臨床試験の関係者の方々に、実際にどのような使われ方をされているのかという、そういうアンケート、調査をさせていただきました。

次に、一般の方たちが、臨床試験、またはいわゆる治験ですね、にどのようなイメージを持っていらっしゃるのか。そちらの意識調査をさせていただきました。

その一般の方たちが、医療情報やいわゆる臨床試験、まあ直接「臨床試験」という言葉で調べられる一般の方というのは、ほとんどいらっしゃらないかと思いますが、医療情報を必要としたときに、どのようなツールを使って、どのような言葉を使って情報を集められているかという、その実態調査を、これもアンケート調査ですけれどもさせていただきました。

それに関連して四番目。これも黒須先生の方からお話があって、おお、やったーと思ったんですけれども、実際に既存の、というのは、今あります国立保健医療科学院の方で持たれているポータルサイトを 8 名の方に実際にいじっていただいて、評価をしていただいたという、その実際の評価をいたしました。

そこから出てきた問題点というものと、あと最後に、臨床試験ポータルサイトに求めるものということで、これは五番目になりますけれども、治験とか臨床試験に対して多少の

知識のある方々に、どういうふうな情報があればか、どういうふうな内容であればいいかというふうな辺りを、こちらアンケート調査をさせていただきました。

六番目、七番目ということで、海外の状況の視察をさせていただいたり、ちょうど一年前ですね、同じ場所なんですけれども、二月に、実際にもうすでにいろいろな形でサイトを持っていらっしゃる方とか、臨床試験に関わっている有識者の方々と交えて、どの様なものが本当に必要とされているのかという公開フォーラムを行わせていただきました。

これからご紹介するのは、一番から五番までですね、実査を含めた調査で、いくつかのポイントが明らかになったということで、本当に駆け足でございますけれども、ご報告をさせていただきたいと思います。

#### 【スライド\_03】

最初に、こちら臨床試験の関係者の方々に、実際どのようなデータベースを日頃使っているのか、とか、実際どのようなデータベースが知られているのかという調査をさせていただきました。

#### 【スライド\_04】

これは結果の一部をご紹介しているだけですけども、先ほどの三つのデータベース UMIN と医師会、それから JAPIC ですが、数字で見ますとそれぞれ 20 %前後、JAPIC のほうは 11 %ですか、ということで、あまりこちらの方もそれほど活用されていない印象があったんですけども、こちらの三つを統合して、一番ある意味使いやすい、ここに来れば三つのデータベースからの情報が一気に手に入るという、こちらのデータベースは、現場の方々、専門にしている方々にも、あまりまだ使われていないというふうな数字が明らかになりました。

Clinical Trials.gov 等の国外のデータベースサイトを使うとおっしゃった方も、今回の調査では 7 %、PubMed 等による文献検索というのも 14 %ということで、少ないながらもこの中で一番日頃使われているのは、ある意味一般の方と同じに、特定のサイトではなくて検索エンジンで適当な検索ワードを入れて、ヒットしたページを見ると答えている方が、パーセンテージ的には一番多かったという結果になりました。

当初の予定ですと、この専門家の方への意識調査をした後に、じゃあ一般の方はどのぐらいこのデータベースを知っていますかというふうなアンケート調査をしようと思っていたんですけども、この数字を見た段階で、これはもうするまでもないだろうということで、ちょっとそこら辺はとばさせていただいて、(臨床試験関係者でこの程度の認知度であれば) 一般の方はまずこういうデータベースの存在自体ご存じないだろうという、そういうような結果が明らかになりました。

#### 【スライド\_05】

一般の方たちは、では臨床試験、臨床研究ですね、に対してどのような意識を持ってらっしゃるのかということ、国民の1,000名ということで、インターネットのアンケートをさせていただきました。全国北海道から沖縄までのWeb利用者の方で、年齢との人口比率ですか、そちらの方で母集団を組ませていただきまして、12年の9月に行わせていただきました。

#### 【スライド\_06】

これも結果としては、その一部のご紹介ですけれども、臨床試験に関してどのぐらい認知があるかというのは、先ほど小川さんの方からもご紹介がありましたように、国の方でここ数年、非常に力を入れているということもありまして、私どもも数年前に臨床試験とか治験という言葉を知っていますかというふうな調査を行ったときは、もっともったこのパーセンテージは低かったんですけれども、2012年の調査では61%の方が聞いたことはあるというふうに答えられていました。

また、説明できるというふうに答えられた方も21%以上いらしたんですけれども、じゃあ具体的にどういうことが説明できるかというふうになると、必ずしもその説明の内容が正しいかどうかというところはかなり怪しいところもある、ということで、まあ知ってはいる、聞いたことはあるという方は確実に増えておりますけれども、実際にそれを正しく認識されているかというところ、こちらのイメージ調査でもありますように、まだまだネガティブなイメージが出ていたり、アルバイトのような第1相でよく見られるようなイメージを持っていたりということで、必ずしも正しく理解されているかというところはまだ不確かなという現状も明らかになりました。

#### 【スライド\_07】

このような情報を調べる際に、どのようなツールや情報源が利用しやすいか、ということをお聞きしましたところ、やっぱり圧倒的にインターネットが使いやすいということが出てまいりました。このポータルサイトの構築を考える上で、対象の世代をどの辺りにするかというのは、会議の中でも何回も議論になったんですけれども、こういう調査を通してですね、実際にその情報を必要としている方には80代の方、70代の方もいらっしゃるかもしれませんが、その方たちがご自分で調べるかというところ必ずしもそうではなくて、そのお子さん世代ですね、4、50代の方たちが親御さんの情報も調べるというふうなことがありましたので、その結果も踏まえて（インターネットを日常的に使っている世代を対象にしました）、インターネットというのが今の現代社会では、やはりツールとしては一番使いやすい、利用しやすいというふうに思われているんだなということが考察されました。

その他、新聞・雑誌・テレビなどのマスメディアであったり、ポスター・パンフレット等ありましたけれども、希望としてはというふうな自由記述のところでは、やはり受け身の情報だけではなく、かかりつけの医師等から直接情報が得られれば良いという、そうい

うふうな自由記述もございました。

#### 【スライド\_08】

こちらが実査による情報入手方法の研究ですけれども、実際に一般の方たちは必要な情報をどのようなキーワードで調べられているかということで、この写真、パソコンルームでお一人一台ずつパソコンをお渡ししまして、シナリオを作りまして、ご自分またはご自分の家族がこのような病気になったとして、その情報等を調べたい、新しい情報であったり薬であったりを調べたいと思ったときに、どのような方法をとってどのようなキーワードを入れるかということのを、制限時間 30 分ということで、一般ボランティアの方ですね、ネットの利用経験が、一応経験として利用はされているんだけどハードユーザではないということで、日常的に使ってはいるけれども、特別何かを調べるような仕事に就いているわけではないという方を中心に、8 名の方にご参加いただきました。

#### 【スライド\_09】

30 分ということだったんですけれども、やはりまずその開いた画面というのは Google とか Yahoo 等の検索サイトで、そのシナリオに出てまいりました薬の名前だったり病名だったり、またその病名に対しての新しい治療法というふうなことで、現在自分が使っているような薬だったり情報だったり病名を入力して、まず検索をスタートするという方が圧倒的でした。当然そこで出てくるものにはさまざまな情報があって、例えばその病名に対しての説明の PDF であったり、それをじっくり読んでいたり、やはり同じサイトを何回も何回もページが変わってしまうと忘れてしまうというお話が先ほどありましたけれども、同じサイトに何回も何回もアプローチをしていたりというような現状がありました。思いつく検索ワードというのもやはり限られていますので、同じ検索語を何回も入れるとか、また後ほど詳しい説明がございますけれども、and 検索とか or 検索とか、そういう辺りはなかなかハードルが高くて複数の検索語は入れないとか、そういうような、やはり普段そういう情報を調べ慣れてない方の特徴のようなものも見られました。

最終的にこの 30 分の間で、今あります国立保健医療科学院の臨床研究ポータルサイトの入り口にたどり着いた方は、最後 30 分のぎりぎりのところで、お一人ということで、それもどンドン調べていく中でたまたまたどり着いてしまったという、そういうたどり着き方であったという結果が出ております。

#### 【スライド\_10】

実際にじっさいにいただいていますので、そのサイトのユーザビリティですか、今となつてはそのユーザビリティについてもっと詳しく知ってから行えば、というふうなこともあります。そのユーザビリティについて、この参加された方に自由記述で評価をしていただきました。

その時は、最初から今の既存のサイトのトップページをスタートとして、こういう臨床試験情報を調べてくださいというふうな形で、一個一個調べながらそれぞれの使いやすさ等について自由に評価をしてください、と 30 分時間を設けたんですけども・・・

#### 【スライド\_11】

まずスタートとして、そのサイトのトップページを出していたんですけども、データベースの入り口がわからなくて、結局 30 分間うろろうろしてしまっ中に入れなかったという方が 8 名中 2 名いらっしゃいました。慣れている方はどこに何というのがすぐ分かると思うんですけども、さらに科学院の方のトップページからスタートをした場合に、どこにそのデータベースの入り口があるかというのが確かに分かりにくいところがありまして、まずこの辺りに言葉を入れたりとか、この辺を開けてみたりとか、この辺に入れてみたりとか、うろろうろしているうちに 30 分過ぎてしまったという方が何人もいらっしゃいました。

デザインに関して、先ほど私の最初のパワポに女の子が、というので、なくてもいいけど、あったらちょっと癒しになるかなというような、そういうお話も（黒須先生から）ありましたけれども、やっぱりデザインに関して一般の方から見ると、まずちょっと「難しそう」とか「お堅いな」というイメージが多い。内容的にも専門用語が多い、専門家向きだという、やはりその辺りが懸念されてはいたんですけども、そういう言葉がよく聞かれました。やはり専門家が必要としている情報と自分たち一般の人が必要としているものは違うので、できたら入り口を分けてほしいということとか、簡単な検索で使えるようにしてほしいという話がありました。

実際中のそのデータベースに入っていたいただいた方も、中に入った場合に、入れる言葉が、主要評価項目はなんだとか、副次的な評価項目はなんであるとか、試験のデザインはなんだとか、その辺りのところを入れていかなければいけないので、かなりその中に入ったとしてもハードルが高かったと（おっしゃっていました）。

それから、だいたいこういう試験をやっているということがわかれば、詳細は直接相談をしたいという声が多く聞かれておまして、担当者の連絡先がないということで、その実施の責任機関というものは当然入っているんですけども、じゃあその先誰に聞けばいいの、という情報がないということで、直接確認ができないということはかなり、何名の方からも出ていました。

これはちょっと本研究の目的と重なっていますけれども、もっとベーシックな問題ではありますけれども、いくらサイトの使いやすさとか情報の量を整備しても、やはりまだまだその臨床研究とか治験というものの自体の認識が低い方が多いということで、結局情報を得てもそれが判断できないとか、理解できないという問題があるということで、これはずっと常に継続的に行っていかなければいけないことですが、やはりその正しい判断・理解ができるような啓発活動ということはやっていただきたいという声も多くありま

した。

この意見が出てきたのは、実はこの実査をやっていたときに、薬の開発について簡単にミニ講義みたいなものをしたんですけれども、やはりそういうことを初めて聞いたとか、それを聞いて初めて理解できたというような反応がまだまだ多くて、やっぱり作る方、提供する方の自己満足でサイトを作ってしまったも、使われる方がそれを活用できなければ意味がないということを実感した結果でした。

#### 【スライド\_12】

次に行った調査ですけれども、こちらは 500 名の方を対象にしたんですけれども、実際に臨床試験について多少の知識があるというふうに答えられた方を 500 名選びまして、インターネット調査で、もう少し具体的にどのような情報が必要なのかとか、どのようなサイトであれば使っていただけるのかとか、使いやすいのか、という辺りを、これも自由記述をベースに聞いていきました。

#### 【スライド\_13】

これがこの第二部のポイントにつながっていくんですけれども、やはりまずはアクセスしやすさということで、先ほどの結果でもございましたように、やはり Google や Yahoo 等の検索エンジンを用いて調べていらっしゃる方が圧倒的に多いということで、このアクセスがしやすいということ、まずたどり着かないことには、これも先ほどの黒須先生のお話でございましたけれども、いくらいいものを作ってあっても、誰もたどり着いてくれないことには宝の持ち腐れということで、このアクセスというのはまず一番重要なことであるだろうという結果としてポイントに挙げられました。

もう一つが、検索機能の多様性・利便性ということなんですけれども、既存のサイトの方で情報を調べようとした方が、やはりご自分が知っている言葉で入れるというのは利用者としては当然だと思んですけれども、それが例えば「乳がん」で、“乳”が漢字で“がん”がひらがな、または“乳癌”、両方とも漢字とか、“乳”が漢字で“ガン”がカタカナとか、そういうそれぞれご自分がそうだと思っていらっしゃる言葉で入れたときに、抽出される件数がそれぞれ異なってしまうというような結果が明らかになりました。登録される側の言葉と、実際に一般の方が自分がこういうことを知りたいと思ってふと入れる言葉というのが、必ずしも一致していないという現状が明らかになって、Google 等ではシソーラス機能というものが整備されていると思いますけれども、その辺りはやはり情報を提供する側が、ある程度どんな言葉で入れても対応できるような形にしていかなければいけないのではないかということで、この辺りがもう一つのポイントとして挙げられました。

もう一つ、これも重要なことだと思んですけれども、実際に臨床研究を始めようとする方が登録をしなければいけない項目と、自分が、または家族の方が病気で調べたいと思ったときに入れようと思う項目は、かなりミスマッチだったということで、じゃあ一般の



方はどういう言葉を入れるかという、やはりまず自分が罹っている、または家族の方が罹っている病気の名前であったり、受けている治療法であったり、あとはそういう状況が重ければ重いほど、自分の住んでらっしゃるところの近くで何か行われていないかということで、その地域ですね、居住地というものが一番入れやすいキーワードだということも調査で明らかになりました。

結局、誰でも自分が情報を調べたいと思うときは、必要な情報だけが簡単に迅速に手に入ればよくて、あまり細かい情報というか詳しい情報というか、自分に直接関係ないと思われるものはいらなわけなんですよね。その辺りが実査の調査のグループディスカッション等でも、500名の方への自由記述による調査でも、一番多く出てきたところでした。やはり身近なもの、身近な項目で入力できて、その入力方法もなるべく簡便なもので、かつ自分に当てはまる内容だけがすばやく抽出できれば、それが一番望ましいということで、やはりこの検索システムというものはかなり工夫していかなければいけないんじゃないか、というのが三つ目のポイントとして出ました。

こちら先ほどご質問のほうでもございましたけれども、やはり今いろいろなサイトがあった場合に、有害なものもいいかげんなものもいっぱいありますが、それを一般の利用者の方が判断をすとか選別するというのは難しい。専門家でも難しいという状況の中で、どのような保証とかができるのか。リンクをつなぐとして、どのような観点で、そのサイトには信頼性があるということを考えて抽出していけるのかと。これはこの後のご報告でもございますけれども、やはりなんらかの形でこの情報は大丈夫ですよということがわかっていてリンクしなければ、国のポータルサイトといった場合に問題があるということで、その信頼性をどのような形で示していくのか、という問題ですね。

それからこちら先ほど出ておりましたけれども、やはり分かりやすい、一般の方も分かりやすい言葉というのはどういうものなのかということで、専門家の言葉で書いてあるものを、いかに分かりやすく平易な言葉にするかというのは、特に医療の方では常に問題にはなっていますけれども、用語集だったり教育コンテンツなどで、なにかその辺りはカバーしていく必要があるだろうと。

で、先ほど要望として出ておりました、最低限の情報、どこで自分の病気に関わるものが行われているというふうなことが最低限分かれば、後は直接質問したいという場合に、その連絡先の表示というのはどのような形ですればいいのか、またそれが可能なのか。この辺りの、大きく分けると六つのポイントが明らかになってきました。

#### 【スライド\_14】

今お話ししたようなことを図示しますと、一般の方が求めている臨床試験情報検索のイメージというのは、別にセッティングされていたものが全部必要なわけではなくて、自分が住んでいる場所だったり、疾患名であったり、治療方法であったり、受けている、また飲んでる薬だったりを入れたときに、なるべくスムーズに、その必要な情報につながれ

ばいいと。この研究は、国立保健医療科学院のポータルサイトにいかにつなげるか、アクセス数をあげるということも一つの目標として挙げられておりますので、このいろいろなニーズで入ってきたものをキャッチして、それをいかにスムーズにつなげるかということが、どちらかというとも本当の意味のポータルサイトっていうんですかね、これが私どもに課せられた使命かなということが、昨年度の調査の結論としてイメージされたものです。

#### 【スライド\_15】

今年度ですけれども、これからご紹介させていただきますが、六つの項目が出てまいりましたけれども、やはり公開はまだ想定されていないという問題がございますので、アクセスのしやすさについてはここで手を入れられる問題ではない。では中に入ったときに、一般の方がいかに簡単に、いかに自分たちの使いやすい言葉で検索できるかという、まずこの検索機能のところに力を入れていこうということを、一つの目標として掲げました。検索しやすいビジュアルインタフェース、先ほど、どのページも同じようなとか、そういう話もございましたけれども、であるとか、先ほどの「乳がん」、「乳癌」などのシソーラスであるとか、ユーザフレンドリーな検索システムとか、わかりやすい結果表示、また、1,000名の方を調査した結果で出ていたんですけれども、今のところは医療情報を調べる場合はじっくりと自宅のパソコンという方が圧倒的だったんですが、将来的に、これだけ普及しているスマートフォン・タブレットというものでも当然そういう情報を調べていくということになると思いますので、その辺りの利用を想定したような形というのを、まず大きな目標として掲げました。

副次的なものでございますけれども、まず信頼できるリンク先というものをどういうふうを選んでいくかであるとか、病気の情報から自然に、その病気の臨床試験はここでやっていますよというふうな情報がつながるようにとか、一般の方がまず治験とか臨床研究・臨床試験について理解したいときにこのような情報がありますよというふうに、ちょっとこうカテゴライズをする必要があると。当然もうハードユーザであったり専門家の方は直接専門家のサイトに行っていたらというような分類も必要であるとか、あと、やはり文字情報というのはなかなか入りにくいのですので、動画であるとか、特に出ていたのが、臨床試験に参加した方の経験談のようなもの等を取り入れていって、その辺り複合的に理解をしていただくというような形というのも、考えていく必要があるでしょう。

今回の一番大きな目的というのは、一般利用者のということですが、実際に要望としてかかりつけの医師からそういう情報が欲しかったとか、身近な医療関係者からそういう情報が欲しいということもありましたので、その関わっている医療者とか研究者にも利用価値が高いような教育コンテンツ、逆に言うと、臨床試験に参加する一般の方たちの心理であるとか知識であるとかを理解していただけるような、そういう教育コンテンツというのも必要なのではないかと、その辺りのところを平成25年度の目標として掲げまして、

**【スライド\_16】**

ポータルサイトのまずプロトタイプ of 構築作業に入りました。スタートが遅れておりますのでちょっとずれこんでいるんですけども、まずたたき台を作って、内部評価というふうな形で手を入れて、昨年評価をしていただきまして、その結果を踏まえて改修をしつつある状態を今日皆様にはご覧いただきたいと思ひます。

このフォーラムに予約参加、申し込みをいただいた方々には、その後の二次評価にご参加いただけますかという選択、チェックしていただいたと思ひんですけども、今日のフォーラムが終わりまして、またフィードバックしていただいた結果を踏まえて、2月上旬に二次評価のほうを行わせていただいて、先ほどの黒須先生のお話のように評価で終わらせていただけるというふうな思ひっております。

# I. 昨年度調査結果より

## ～ポータルサイト作成にあたっての留意点～

北里大学薬学部

医療心理学部門 有田悦子

aritae@pharm.kitasato-u.ac.jp



## 平成24年度調査研究実績

1. 国内外の臨床試験ポータルサイトの基礎調査
2. 一般国民(インターネット利用者)における臨床試験に対する意識調査
3. 国民・患者の臨床試験情報入手方法に関する研究
4. 既存のポータルサイトの使用性に関する研究
5. 国民・患者が求める臨床試験ポータルサイトに関する研究
6. 海外の臨床試験関連ポータルサイト及び関連機関に関する研究
  - ① 海外の医療情報サイト
  - ② オランダの臨床試験関連ポータルサイト事情
7. 一般への周知・啓発に関する取り組み  
公開フォーラム「一般国民が望む臨床試験ポータルサイトとは？」

## 調査1

# 国内外の臨床試験データベースの基礎調査

- 対象:臨床試験関係者 74名
- 方法:インターネット調査
- 時期:2012年11月～2013年1月
- 質問項目:
  - ・国内外の臨床試験データベースの認知度
  - ・臨床試験等の情報検索の方法

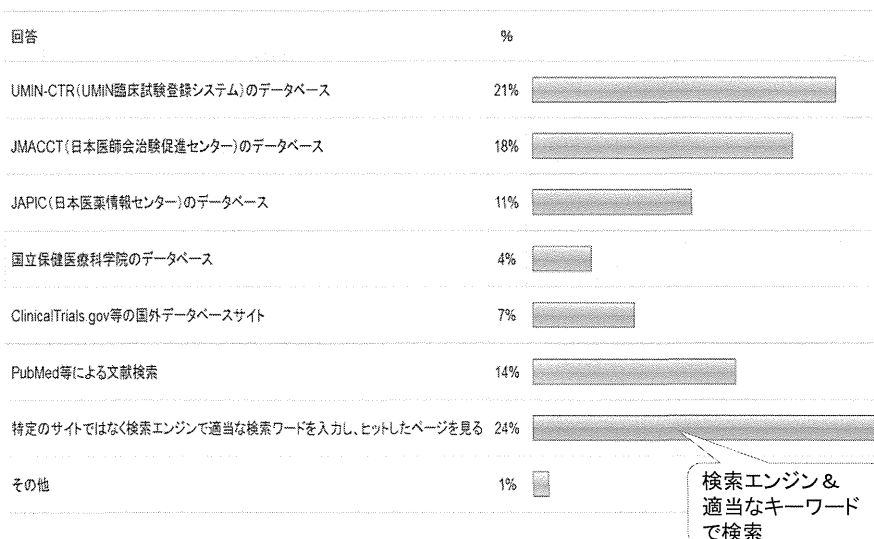
Copyright © 2012-2014. KITASATO UNIVERSITY ALL RIGHTS RESERVED.

3

## 調査1 結果

# インターネットで臨床試験の情報検索をする際、どのようなサイトを参照するか？

(複数回答:187回答)



Copyright © 2012-2014. KITASATO UNIVERSITY ALL RIGHTS RESERVED.

4